

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	医療法人愛全会グループホームこがね虫の家	評価実施年月日	平成21年10月28日
評価実施構成員氏名			
記録者氏名		記録年月日	平成21年10月30日

北海道

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで いきたい 項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1 ○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	こがね虫の家・理念 ・今日が楽しかったと思える一日を。 ・地域に見守られ、穏やかに100歳へ。 理念を掲示板に掲げている。住み慣れた地域での暮らしを、支える為の事業所理念を考えている。		
2 ○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	共有する時間を作り、具体的なケアについて、意見の統一、話し合いをしている。カンファレンス、申し送り時間等を利用、再確認の時間をもうけている。 理念を常に心に留め、職員は業務に取り組んでいる。 勤務の(出、退)時等、僅かな時間を有効利用し、理念の再確認を行っている。		
3 ○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	家族の来所時、及び、月1回のお便りを通してまた理解をしてもらうよう取り組んでいる。 御家族の来訪時、ご近所の方とお会いした時説明している。 地域の会合等にも出て、パンフレットを持参し説明している。	○	地域の方々に、こがね虫の家の存在をより多く知ってもらう努力が今後の課題。
2. 地域との支えあい			
4 ○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りしてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	声かけ、挨拶を通し、日常的な付き合いをしている。ご近所からの、お花や野菜のおすそ分けを頂く事も多い。 ゴミステーションの片付けをする事で関係を深めている。	○	今後、建物、裏のお宅や近所のクリーニング店の方々にも声がけし、グループホームへの理解をお願いしたい。
5 ○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	行事のお便りを回覧板に載せてもらう等、交流に努めている。町内会や総会(4月)女性部の小旅行(9月)には欠かさず出席している。 グループホームの防火訓練に参加していただいたり、グループホームからも町内会の共同訓練に参加している。	○	町内会長から“班長会議”(年数回)への参加も声がけ頂き、出来るだけ参加したい。
6 ○事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	数ヶ月に1度の地域運営推進会議で地域の方々とのコミュニケーションを計っている。 ・季節毎の大清掃日に参加。 ・除雪日(合同の)への参加。 地域の方達を対象に防火・防犯研修を行っている。	○	(民生委員の方を通じて)高齢者の方々に気軽にグループホームに立ち寄り頂けるよう、お願いして行きたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで いきたい 項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7 ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	評価の意義や目的を、全職員に伝え、時間を取って話し合っている。評価記載のファイルを、身近な場所に置き、目を通すよう心がけている。日頃の振り返りをしている、(前回の評価を受け)町内会との合同防火訓練、他グループホームとの関わり(二ヶ所訪問)を行っている。		
8 ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている。	事業所側からの一方的な報告に留まらず、意見、要望を受けて、今後の課題に関するモニター役になっている。学習会を開催することも多い。「認知症を学ぶ会」「成年後見人制度について」等。メンバーに9月から町内会防災部長に参加して頂き、より議題の幅が広がっている。	○	出来るだけ多くの御家族に参加して頂く為に日程、訪問を工夫していきたい。
9 ○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	3ヶ月に1度の札幌市主催の管理者会議への参加、及び、研修会に参加している。また地区連絡会議に参加し、情報交換をしている。		
10 ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	勉強会を開き、職員の理解を深めるようにしている。包括支援センター職員による「成年後見人制度」についての学習会を行なっている。	○	実際に成年後見人制度の利用を開始する入居者がいる。御家族と共に支援してゆきたい。
11 ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待に関する情報を掲示板に貼り、全職員が内容を把握し、実践に生かしている。学集会への参加により、学ぶ機会をもうけている。又、他職員に得た知識を伝えている。	○	組織会議で研修会を定期的に計画していました。
4. 理念を実践するための体制			
12 ○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約書の内容を良く説明し、納得を得ている。書庫内の定位置に保管。いつでも確認できるようにしている。契約書等、事前に手渡し十分な時間を取り熟知頂く様にしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで いきたい 項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 ○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者本位の運営を心掛けている。その時々の利用者の不安や意見には、その都度対応している。、運営母体(事業室・サービス推進室)の機能利用をお知らせしている。意見・苦情等もカンファレンス迅速な対応をしている。		
14 ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	ご家族来所時に、生活の様子等を話している。健康状態の変化等には、早急にご家族へ電話で報告をしている。金銭管理～毎月お預かり金の収支、領収書を添付し、郵送もしくは手渡し確認を得ている。月一回定期的にお便りを郵送。写真等を通して、日頃の生活を御家族に伝えている。		
15 ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご家族には来訪時、またはお手紙等でなんでも言ってもらえるような雰囲気作りを心掛けている。グループホーム事業室(愛全会全体として)サービス推進室も受け入れ先としている。年に一回、御家族アンケートを行い、日頃の想い、希望等うかがっている。		
16 ○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月1回の全体ミーティングを開いている。管理者は意見や提案を聞くように心掛けている。また、運営者にも、より質の向上を目指すよう働きかけている。	○	個々の職員の意見、想いを受け取る工夫、話し合いの場をより多く作りたい。
17 ○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	利用者の自由なく暮らしをできる限り支えられるように、勤務調整等を行っている。行事等には職員数を増す等の対応を行なっている。病院への受診同行時、地域の行事参加時等、短時間勤務で工夫し、対応している。		
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	利用者やご家族との信頼関係を築く為にも、馴染みの職員が対応する事を考えている。異動が止むを得ない場合も引継ぎの努力をしている。新入職員への教育(マニュアル)を行い、職員間のサポートを心がけている。(同系列の)他グループホームから異動してきた職員2名(10月から)も同一事業所での教育・実践があり、特に違和感なく、入居者に受け入れられている。	○	異動等が発生した場合には、“お便り”等で知らせて行きたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで いきたい 項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19 ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	研修にはなるべく多くの職員が受講できるようにしている。研修報告書は、全職員が閲覧できるようにしている。愛全会としての内部研修(2ヶ月に1回ペース)札幌市主催等の外部研修へは出来るだけ参加をしている 職員間で話し合い、必要な書籍を購入、(例:心理学の本)学習している。	○	ユニット内研修を月1回で続けて行きたい。
20 ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	3ヶ月に1回、札幌市の管理者会議と南区の管理者会議に出席している。平成21年2月北区グループホーム「かがやき」と平成21年8月グループホーム「栗ちゃんの家」を訪問した。	○	今後益々他グループホームとの交流を計りお互いの向上を図りたい。
21 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	休憩室を確保している。職員の人間関係を把握するよう心掛けている。1年に1～2回程、グループホーム職員の交流を兼ね、親睦会を行っている 日帰り旅行や趣味のサークル等へ参加し、リフレッシュしている。		
22 ○向上心をもって働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。	職員の資格取得に向けた支援を行っている。職員が向上心を持って働けるよう、機能評価を行っている。学集会や研修への参加を(勤務状況を確認しながら)すすめている。 内部研修はユニット必ず一人は参加し研修報告をしている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23 ○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	入所前に、事前面接を行い、ご本人、ご家族に、グループホームの生活を説明している。 契約書等、見る機会を持ち確認をしている。 入居前に実際にグループホーム出向いて頂き、居室、共同スペース等、確認してもらっている。		
24 ○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	ご家族が求めているものを聞き、良く理解し、どのような対応ができるか話し合っている。 来所時、電話での相談事等、受けている。(上記と同様)契約書、重要事項説明書等、事前に熟読して頂いている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで いきたい 項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 ○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	将来的な相談が必要な相談者には、場合によって他のサービスに繋げる等の対応をしている。	○	家族と連携を密にしその方に合ったサービスを考えて行きたい。
26 ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	見学時に、雰囲気を感じて頂く為に“食事・ティータイム”と一緒に摂ったりし徐々に慣れる様工夫している。ご家族との連絡を取りながら、本人の生活が安定するのを見極め、安心感を持ってもらう。入居間もなく、不安感のある方々には、職員と会話しながら居室で食事を摂る等、マンツーマンのケアを心がけている。スキンシップを大切に“ぬくもり”を感じて頂くことを多くしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	利用者は人生の先輩という考えを職員が共有している。普段から利用者に教えてもらう場面が多い。また、そういう場面が多くなるように声掛けや工夫をし、セッティングしている。煮物等の味付け等“おばあちゃんの知恵”を教わっている。手芸(特に縫い物)の時間に縫って下さった“雑巾”を実際に使用している。		
28 ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	家族との情報交換を良く取るように心掛けている。その結果、家族との協力関係を築ける事が多くなっている。ご家族が多忙で長期間来所できない時、等は電話等でお話し入居者の生活ぶりをお知らせしている。月に一回は発行の“お便り”を御家族は「楽しみにしている」の声を頂いている。又個別相談や、一緒に考え、工夫出来るよう場のセッティングもしている。		
29 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	本人、家族の想いや状況を見極めながら、外出や外泊で家族と一緒に過ごす事を勧めたり、行事に家族を誘ったりし、より良い関係の継続に努めている。ボランティア(大正琴演奏会・手芸教室)来所は事前にご家族にお知らせし、参加をお願いしている。10月16日に解説10周年記念パーティーを行い、ほとんどの御家族が集まり、交流を、より深めた。		
30 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	地域に暮らす馴染みの知人の訪問により、継続的な交流ができています。(大正琴等) 大正琴演奏会のボランティアとは約8年のお付き合いで、親しくさせていただいている。月一回手芸教室のボランティアと2年のお付き合い。三味線演奏のボランティアとも親しくさせて頂いている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	〇印 (取組んで いきたい 項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31 ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	利用者様の情報を、職員間で共有、連携し、心身の状態や気分を注意深く見守るようにしています。話しやすい人同士の交流場所を使ったり、職員が入りゲームを楽しんだりをしている。仲の良い入居者同士には、ソファで横並びに座ってもらい、又食卓テーブルも近くに、工夫をしている。		
32 ○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	他事務所へ移られた方にも、時折、会いに行ったり、積極的に出向いています。入院中の方々へのお見舞いを行っている(随時)(退去後、遠方の施設に移られた方に)手紙を送り、近況を知らせている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33 ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の関わりの中で声掛けし、本人の想いや希望の把握に努めています。故郷の話、(例)「羊蹄山に行きたい」御家族からの情報を得、羊蹄山周辺の町や(共和町、ニセコ、倶知安等)山菜採りの事で話を盛り上げている。生まれ育った故郷の話に大体の入居者はなつかしい表情を見せ、会話も進んでいる。		
34 ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	本人自身の語る言葉や、家族、知人等の訪問時等に少しずつ把握に努めています。(例)囲碁の趣味の方には楽しめる雰囲気を作れるよう、静かな時間を過ごして頂いて。毎朝、新聞を楽しみにしている入居者に、出来るだけ早く、手渡しを心掛けている。		
35 ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	出来る事に注目し、その人全体の把握に努めている。車椅子を押す、掃除機掛けをする等の“他の人への役立ち”を大切にしている。毎日の“ゴミだし”を手伝って下さる入居者もいる。生活の中に役割を持って頂く様努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36 ○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	ご本人や家族との係わりの中で、想いや意見を聞いて、職員全体で意見交換し、ケアプランに反映しています。ケアプランは、本人・御家族の希望を取り入れ、計画作成者と職員数名で作成。最終的に職員全員の同意得て、作成している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで いきたい 項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	主治医とも相談したり、介護計画の状況、効果等を評価している。また、状況に応じて見直しを行っている。 個々の入居者の状況に応じ、頻繁な見直し、評価等を行っている	○	急速な変化に応じたケアプランをスピード感を持って作成するには・・・？今後の課題。
38 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の暮らしの様子や、本人の言葉、職員の気づきや、利用者の状態変化を個々のケア記録に記入し、職員間の情報共有を徹底している。また、それを基に介護計画を見直しし、評価をしている。“申し送り表”の利用により小さな事の気づきを見逃さない工夫をしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	車の手配、受診同行、買い物をしたり行事等、 近くの“さんる一む”で行う、ディーサービス(主に毎週木曜日)に時折参加している		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	利用者が安心して、地域での暮らしを続けられるよう、民生委員と意見交換をする機会を設けている。 地域運営推進会議等を通じて。 福祉会館を利用して地域の方々との交流を行っている。		
41 ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	利用者の状況や希望に応じて、行事やレクリエーション等でボランティアを利用できるよう支援している。また、訪問美容室や近隣の市の公園等も利用している。福祉会館で行う行事(音楽会、体操教室等)へ参加、サービス事業所との連携で、大型バス配車し、12月にホワイトイルミネーション見学予定。		
42 ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	運営推進会議に地域包括センターの職員が参加している。 地域包括支援センター職員による「認知症を学ぶミニ講座」を開催した。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	〇印 (取組んで いきたい 項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	かかりつけ医がいる。(訪問診療)受診や通院は、本人やご家族の希望に応じて対応している。・月に2回の訪問診察・月に4回の訪問看護師による健康相談、他に電話相談等。身体状況に合わせ、かかりつけ医(クリニックあい)通院受診する事も有る。		
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	訪問診察医により、利用者個々の対応ができています。医師により、状態に応じた薬の処方、生活の見直し等の指示を受け、実践している。かかりつけ医とは24時間、連絡・相談できる体制になっている。		
45 ○看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	毎週1回の訪問看護師により、日頃の健康管理や、医療面での相談、助言、対応を行っている。医師、看護師は連携し身体状況をグループホームへと伝達されている。訪問の看護師は同一の人で“顔なじみ”となり、入居者は安心した表情で健康相談することが出来る。		
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入院時は、本人の情報を家族より得て、医療機関に報告し、職員はできるだけお見舞いに行くようにしている。医療機関からの連絡、報告を受け、速やかにご家族へお知らせしている。同系列の病院(愛全病院)とは、連携体制が整っている。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	同系列の医療機関と連携し、終末期の看取りは行っていませんが、入、退院を繰り返しながらも、出来るだけグループホームでの生活を支援しています。(事例)癌を発症した方が、御家族と話し合い、ホスピス病院入退院を繰り返し、ぎりぎりまでグループホームでの生活を維持した。		
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	同系列の医療機関と連携し、看取りのケアは行っていません。(上記と同じ)ご家族の思い、意向もふまえて都度の対応を行える。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	〇印 (取組んで いきたい 項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>49</p> <p>○住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>現在の情報を他の事務所へ提出し、今までの生活レベルの維持を心掛けている。 (例)東京の娘様と同居の為グループホーム退居の方、ご主人・息子様と充分話し合い、今までの安全・安心な生活を続けて行ける様確認した。</p>		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
<p>50</p> <p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>過去の生活背景を入所時に伺い、利用者の誇りやプライバシーを損ねない対応を心掛けています。かつての職業“警察官”“教師”等際立った“誇り”には特に留意している。入居者に対する言葉使い、態度、表情には、常に気を使い、努力・工夫している。記録の書き方を尊厳を損なわない言葉使いで記入を心掛けている。</p>		
<p>51</p> <p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>各利用者に合わせた声掛けを行い、職員の意見を通すのではなく、利用者様と一緒に話し合いの場を持って、利用者様の意見を尊重している。利用者様に“選んで貰う”(レク内容、散歩コース等)ことを大切にしている。献立を決める際に、話し合いに参加して頂く等、工夫している。</p>		
<p>52</p> <p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>各利用者の様子を見て、買い物や散歩などの希望や思いに、その都度対応している。手芸をしている人、散歩の人、読書の人等、多様な楽しみを支援して行っている。(食事時ゆっくりマイペースで食べる方には)あせることなく最後まで食べて頂くよう支援している。</p>		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
<p>53</p> <p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>個々の生活習慣に合わせ支援をし、日頃から化粧やお洒落を楽しんでもらえるよう取り組んでいる。尚、美容室と連携を取り、馴染みの関係を作っている。ご家族の協力も得て、季節の衣類や靴の用意を欠かさず行っている。訪問理容室(2ヶ月に1回)も加わり、選択の幅が広がった。</p>		
<p>54</p> <p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>調理、盛り付け、方付け等を利用者と共に行い、また庭のトマト等も共に採りに行き、調理を楽しんで行っている。出来る事のお手伝い(もやしの芽取り、皮むきや食器洗い)をお願いしている。食器の洗い物が得意な入居者に洗い物殆どをお願いし、満足感を得て頂いている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで いきたい 項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55 ○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	職員は一人一人の好物を理解して、その状況に応じて楽しめるよう支援している。ご希望の献立(特に皆様、生寿司が好物)は少なくとも月1~2回の用意し、楽しみを持って頂いている。「父の日」、ご本人の誕生日会等、希望によりお酒・ビールを出している。		
56 ○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	排泄チェック表を使用し、利用者の排泄パターンを把握し、トイレ誘導をしている。トイレ誘導時は、さりげない声掛けを行っている。(特に2階に居室がある入居者)1階の共同トイレを使用することも可能なこと、伝えている。		
57 ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	本人の希望に合わせて、いつでも入浴できるように準備を整えている。また、入浴時は好きな音楽を聴いたり、唄ったり、楽しんでいる。入浴チェック表を利用、長い日時、入浴しない方がいないよう、(健康状態に問題ない場合)留意している。	○	仲の良い入居者同士、一緒に入浴できる方向で工夫していきたい。
58 ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	出来るだけ日中の活動を促し、生活のリズムを整えるよう努めている。また、食後の休息を取り入れ、心身の安定を保っている。リビング、ソファで昼寝する方々もいます、(安心感を得ることが出来る為) 夜間、都度の訪室により、室温、布団の掛け直し等確認している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	得意の仕事を活かし(料理、庭仕事、洗濯物干し等)日々、張り合いのある生活を支援している。食事の準備、後片付け等、楽しみながらお手伝い頂いています。	○	“カラオケ”の希望あり、来年1月に合同カラオケ大会を計画。(近くのグループホームと)
60 ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	本人の訴え、家族の希望もなく、本人は金銭管理を行っていない。グループホームとしてのおやつ購入時等、お店レジで金銭払いをお願いしています。本人の、お小遣い入り財布をお預かりの方が1名。本人参加のシニアサロン参加費を支払ってもらっている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	〇印 (取組んで いきたい 項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61 ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	利用者様の希望や気分に配慮し、日常的に買い物や散歩に出掛けている。歩行状況に応じ“杖”を使用し、散歩を楽しんでいます。春・夏・初秋、庭に出て、お茶を楽しみ(時には昼食)気分転換を計る工夫をしている。		
62 ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	日常の会話の中で、本人が行きたいと思う場所を聞き、職員間で話し合い、レクリエーションや外出の支援を行っている。お彼岸、お盆、法事のお参りには、ご家族と共に出かける方々が多くなります。	○	“温泉”へ行きたい希望が多くあり実現すべく、計画中。
63 ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	本人からの訴えや様子を見て声掛けし、電話使用していただいている。また、電話時、人が居ない場所で使用ができるよう配慮している。時々の電話がけ(娘様へ)を楽しみにしている入居者様がいます。	○	数ヶ月に一回ハガキで、御家族とコミュニケーションをとっている入居者があり、今後も支援して行きたい。
64 ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	ご家族、知人が仕事帰りや都合の良い時間帯にいつでも訪ねて来ていただけるよう、面会時間は決めておらず、訪問者への居心地良い空間作りを心掛けている。訪問者へは必ずお茶をお出しし、明るく接しています。	○	訪問者は主として家族が多い。古い友人、知人等の訪問を受け“なつかしさ”を共有する機会を設けて行きたい。
(4)安心と安全を支える支援			
65 ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	医療法人作成の身体拘束マニュアルに基づき実践している。内部・外部研修等で常日頃“身体拘束をしない”取り組みを行っている。マニュアルを見やすい場所に置き、常に読む事が出来る工夫をしている。更に言葉により身体拘束は日常的に意識する様心掛けている。		
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	利用者が外出したい様子がある時、止めずに、声掛けし、スタッフと一緒に外出している。10:30~17:30頃まで開錠、夜間、職員が手薄の時間は事故防止の意味からも施錠している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで いきたい 項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67 ○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	全スタッフが24時間を通して、利用者様の所在確認している。室内の照明、不用な物は置かない事等、気をつけている。		
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	利用者様の状態により、保管が必要なもの、利用者様がいつでも使えるものに分けて、管理している。特に(常に使用する)液体手洗い石鹸の保管には、気をつけている。特に漂白剤や液体の清掃用品の取り扱い、保管場所には留意している。		
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	火災防火訓練、学習会等で得た知識を実践に活かしている。救急時のマニュアル、連絡報告先等、見やすい所に置き、日頃から見聞きしている。マニュアルを見やすい場所に置き、常に活用が出来る工夫をしている。		
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	救急救命の講座に参加。知識を得ている。マニュアルを見やすい場所に置き、常に読む事が出来る工夫をしている。		
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	防火訓練を年1回以上行っている。平成21年6月8日防火訓練実施。町内会(連合町内会)と地域一帯の防火訓練を実施しました。平成21年6月8日の防火訓練には御家族も参加、実際に防火用品の使用法を学んで頂く。	○	町内会の方のグループホームの訓練にも参加して頂く様、働きかけて行きたい。
72 ○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	ご家族への説明を重ね、一人一人の生活を大切にすることを常に心掛けている。特に2階に居室のある方々(5名)には、階段の昇降時声掛け、同行を必ず行っている。歩行時の手つなぎ、声掛け等常に気配りしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	〇印 (取組んで いきたい 項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 〇体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	系列、協力病院との情報交換を密にし、体調管理に毎日気配りしている。毎日、バイタルチェックを行っている。24時間体制の訪問看護への連絡体制が整っている。かかり付け医、訪問看護師への連絡をスムーズに行っている。		
74 〇服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬の情報内容を職員全員が把握している。特に新しく処方された薬に対しては、情報説明書をよく読み内容を確認している。申し送り等により体調の変化を見逃さない工夫をしている。		
75 〇便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	水分補給をこまめに行い、チェック表の利用等で便秘予防の対策を行っている。毎日の朝の体操や食材の工夫もしている。お茶以外の好みの飲物ジュース等も用意している。“むせ込み”がある入居者にはトロミ剤の使用等で水分不足にならない工夫をしている。		
76 〇口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	食後のうがいの声掛け、就寝前の義歯の消毒、歯磨きを毎日行っている。義歯洗浄は薬剤等の使用で、より清潔を保っている。必要に応じた訪問歯科との連携が出来ている。		
77 〇栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	チェック表の利用による水分摂取量の確保、食事量の把握をしている。高齢者が食べやすい工夫を(食材の切り方、味付け)している。糖尿病の傾向がある入居者には、栄養士からの指示により、低カロリー食を心掛けている。		
78 〇感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	掲示物の利用、感染マニュアルによる、予防の実行をしている。面会時ご来所の御家族等にも手洗い消毒をお願いしている。感染症に関するマニュアルがある。研修も受け、チェック表も用いている		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	〇印 (取組んで いきたい 項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
<p>79</p> <p>○食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。</p>	<p>毎食後、調理器具の消毒、冷蔵庫の清潔、毎日のおやつ等の買い物を行っている。衛生チェック表の利用、愛全会職員(元保健所勤務)による、(衛生)食中毒予防の講話。食中毒予防マニュアルがある。</p>		
<p>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</p> <p>(1)居心地のよい環境づくり</p>			
<p>80</p> <p>○安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。</p>	<p>環境を整備し、花植え、テーブル、椅子等の配慮をして、明るい雰囲気を作っている。庭の手入れ等(水やり、草むしり等)入居者と一緒に行っている。冬場は、すみやかに除雪を心がけている。(特に通路・スロープ等)</p>		
<p>81</p> <p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>季節の飾り物、生け花、入居者の作品提示などで、ゆっくり過ごせる工夫をしている。音楽、テレビ音等には不快にならないよう適度な音量に留意している。手芸教室(月一回)で作った作品を居間にかざり、季節を感じ楽しむ事が多くある。</p>		
<p>82</p> <p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>(リビングから離れた所に)椅子を置き、独りになれる空間を作っている。2階にも椅子を置き窓からの風景を楽しんでもらっている。食事時間等“決まった場所”に座ると安心する入居者には、同じ所に座ってもらう等工夫している。</p>		
<p>83</p> <p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>私物の家具、衣類等、使い慣れた物を使用してもらい、居心地良く生活できるように配慮している。食器(湯のみ、箸等)も使いなれた物を使って頂いている。60年前のタンスを利用している入居者もいる。</p>		
<p>84</p> <p>○換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。</p>	<p>外気の取り入れ、消臭剤の使用等で、新鮮な空気を取り入れている。暖房機のダイヤル等に留意、適温を保つ努力をしている。換気扇や空調口の清掃等気配りしている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	〇印 (取組んで いきたい 項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85 〇身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	手すりの設置、すべりにくい素材(カーペット、手すり)の使用により、安全の確保をしている。照明に気配りし“暗すぎず、明るすぎず”を守っている。		
86 〇わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	目印等の工夫(タンスの引き出しにマーク等)をし、混乱の少ない生活を支援している。居室前のネームプレート、トイレの案内板の設置等の工夫。一人一人の居室前に、“表札”を掲げ、居室の確認をしてもらっている。		
87 〇建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	庭作り、日光浴などが充分に出来る工夫(ベンチ、テーブルの配慮)をしている。(春・夏・秋)庭での異物(外からのゴミ)除去を行ってから、庭にでる工夫をしている。冬場は庭を利用して、雪だるま等を作り、楽しんでいる。		

V. サービスの成果に関する項目		
	項目	取り組みの成果
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<p>①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんど掴んでいない</p> <p>入居者独り一人の思いを大切にする介護を心がけている、健康状態をより知りその人らしい生活を送る支援</p>
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<p>①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない</p> <p>買い物に出掛けたり、地域の行事に参加して一対一の場面を多く作っている。</p>
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<p>①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない</p> <p>夜、遅くまでテレビ、会話を楽しむ入居者もいる。昼食は御家族と居室で摂る事を好む入所者もいる。</p>
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている	<p>①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない</p> <p>お手伝い、レクリエーション等、多数参加、笑顔が多く見られる、職員も明るく元気な態度で業務に取り組んでいる。</p>
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<p>①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない</p> <p>近所の買い物、散歩は都度出掛け、数ヶ月に1回バスによるレク(紅葉見物等)に出掛けています。12月にはホワイトイルミネーション見物予定。</p>
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<p>①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない</p> <p>月2回の訪問診察、月4回の健康相談、24時間体制の電話による相談等のサポートがある。</p>
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<p>①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない</p> <p>職員は、入居者の趣味、やりたい事に配慮し地域の行事等に参加している。(大正琴演奏会等)</p>
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<p>①ほぼ全ての家族 ②家族の2/3くらい ③家族の1/3くらい ④ほとんどできていない</p> <p>(少数だが)年1回程度の来所の家族もいてコミュニケーションが不足している現実がある。</p>

V. サービスの成果に関する項目		
	項目	取り組みの成果
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<p>①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない</p> <p>訪問看護師(週一回)とも馴染みになっている。近所の皆さんにも声を掛けてもらっている。</p>
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	<p>①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない</p> <p>平成21年4月シニアサロン陽だまりに数名の入所者が月一回参加している。</p>
98	職員は、生き生きと働けている	<p>①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない</p> <p>日常、カンファレンス等を通し、「言いたい事」を話せる雰囲気作りを目指しています。職員は健康に留意し自己申告・評価により意欲的に仕事に望んでいる。</p>
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<p>①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない</p> <p>職員は、全入居者に常に気配りをしている。入所者の表情は明るく笑顔である事が多いが体調面、少しの変化にも対応できるよう留意している。</p>
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<p>①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどいない</p> <p>御家族からの苦情の際は都度解決に向け話し合っている。時にアドバイスをいただいている</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)

月に一回、大正琴演奏会(ボランティアによる)を開催。近くにある同系グループホームとの交流を兼ね、演奏を楽しんでいる。又、手芸教室(月一回)随時、ソバ打ちやカラオケ大会等で皆様楽しんでいる。平成21年4月から数名の方が、地域の“シニアサロン陽だまり”に月一回参加。グループホーム以外の方々と交流を続けている。染物や絵葉書作りと共に親しくなった同士、会話を楽しんでいる。今後は地域に住む高齢の方々が気軽に“こがね虫の家”に立ち寄り下さる様、より開放されたグループホーム作り取り組みたい。